文化学園リポジトリ
Academic Repository of BUNKA GAKUEN
服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute
文化学園大学
Bunka Gakuen University
文化ファッション大学院大学
Bunka Fashion Graduate University
文化服装学院
Bunka Fashion College
文化外国語専門学校
Bunka Institute of Language

Title	非漢字圏学習者に対する電子辞書の使い方指導
Author(s)	廣田, 周子
Citation	文化外国語専門学校日本語課程紀要 (21). (2008-02) pp.21-44
Issue Date	2008-02-01
URL	http://hdl.handle.net/10457/966
Rights	

http://dspace.bunka.ac.jp/dspace

（紀要第21号）

非漢字圏学習者に対する電子辞書の使い方の指導

専任講師　**廣田周子**

（2007.9.1受）

要　旨

最近、電子辞書を携帯し、教室で使用する学習者が増えてきた。その現状から、電子辞書の使い方を指導する必要を感じるようになった。そこで、非漢字圏学習者が漢字の読みや言葉の意味を調べる練習をするための教材を作成し、授業で実施した。授業を行う中で、電子辞書の使い方を指導する上でのポイントや、電子辞書の機種や機能による違いなどが明らかになってきた。特に手書き入力ができる辞書については、今回作成した教材の指導内容を見直す必要があることがわかった。

初級レベルの学習者に対しては、教師が電子辞書の特性や機種による違いをある程度把握し、適切なアドバイスをすることが必要であると思われる。

＜キーワード＞　電子辞書　漢字　画数　部首　ジャンプ機能　キーボード入力　手書き入力　国語辞典　漢和辞典　和英辞典

1．はじめに
2．電子辞書の使い方の指導
2－1．教材
2－2．今後改善すべき点
3．電子辞書について
3－1．使い方指導の際の留意点
3－1－1．部首
3－1－2．ジャンプ機能
3－1－3．熟語の調べ方
3－2．最新の電子辞書
3－2－1．言葉の読みを調べる場合

3－2－2．言葉の意味を調べる場合
3－2－3．手書き辞書の使い方の指導
3－2－4．収録語数の問題
4．まとめ
4－1．電子辞書に望むこと
4－2．日本語学習者向けの電子辞書について
資料

1．はじめに

最近、ほとんどの学習者が電子辞書を携帯するようになった。授業中、わからない言葉があれば、電子辞書を取り出して意味を調べる。紙の辞書を引くのとは比べものにならない速さで単語の意味を知ることができる。

電子辞書の使用に関しては、「キーボードを叩いて瞬時に調べた言葉は記憶にはあまり残らず、結局、同じ言葉を繰り返し引くことになる」、あるいは「電子辞書の記述はあまり詳しくないので、やはり紙の辞書のほうがいい」などという意見もある。しかし、「瞬時に引ける」という利点を最大限に生かし、日本語の学習に役立てられないものだろうか。そう考えた時、非漢字圏の学習者のことが浮かんだ。漢字の読み方が覚えられない、あるいは漢字を見ても意味がわからないために、読解で苦労している学習者が、電子辞書を上手に使いこなし、素早く読み方や意味を調べることができたら、今までよりも楽に読解に取り組むことができるのではないだろうか。

また、東南アジアやアフリカなどから来る学習者は、自国では日本語の電子辞書が買えないため、来日後に電子辞書を購入する人が多い。しかし、電子辞書は機能が多く、取り扱い説明書を読むのも困難なため、買ってすぐに使いこなせるようになるというものでもない。

そこで、非漢字圏の学習者を対象に、授業で漢字の読み方や意味を調べる練習を行った。その練習を行う中で、電子辞書を使用する利点や問題点などが浮かび上がってきた。電子辞書は機種によって様々な機能があり、また新製品も次々と発売されているため一概に言えない点も多いが、現時点でわかっていることをま

とめるのも意義のあることだと思われる。

本稿では、非漢字圏の学習者に対して行った授業の内容と、そこからわかった電子辞書使用の際の利点と指導の留意点、さらに電子辞書に望むことについて述べたいと思う。

2．電子辞書の使い方の指導

2－1．教材

初級の学習者が教室内で読む文章などには、漢字にルビがふってあることが多い。よって、それを手がかりにして辞書で意味を調べることができる。しかし、学習者自らが読みたいと思うもの（街角の看板や広告、雑誌など）には、多くの場合ルビはなく、読み方から調べなければならない。漢字の読み方を調べる場合は、紙の辞書でも電子辞書でも基本的な手順は変わらないと考え、まず日本人が漢和辞典を使って読みを調べる場合に取る方法を考えてみた。

・総画数から調べる。（または、部首と総画数を組み合わせて調べる）

・すでに知っている読みから漢字を探し、他の読み方を調べる。

これらの方法を取るためには、画数の数え方や漢字の読み方をひとつ以上知っている必要がある。

それとは別に、文章の中に出てきた言葉を調べる際、学習者にとって難しい点として、以下のようなことがあるのではないかと考えた。

・いくつかの単語が組み合わさってできた言葉の切れ目を捜す。

例）携帯電話自動翻訳サービス

・文中で活用されている動詞などの訓読みを調べる。

例）迷ってしまった／包んでください…

・複合動詞の読み方を調べる。

例）読み始める／食べ飽きる…

これらの点を踏まえつつ、いくつかの段階にわけて教材を作成することにした。

第一段階　漢字一字を示し、画数を数える練習
第二段階　画数から、漢字一字の訓読みを調べる練習
第三段階　活用された動詞を見て、辞書形、読み方、意味を調べる練習
第四段階　接頭辞、接尾辞を知り、三文字の単語を調べる練習

今回の教材の対象は、初級後期（『新文化初級日本語Ⅱ』、既習漢字約160字）学習中の非漢字圏（バングラデシュ、フィリピン、ラオス、タイ、ベナン、ガーナ、ケニアなど）の学習者である。週４コマ（１コマ50分）漢字の授業を行っており、授業では、本校自主作成テキストを使用し、１コマで漢字約10字の読み書きと意味、その漢字を使った単語10～20語の読み書きと意味を学習する。その漢字の授業時間内に、辞書の使い方の指導も行うことにした。普段の漢字の指導に加えて、辞書の使い方の指導も行うことにしたため、無理のないように少しずつ練習できるように配慮した。全９回分の教材を作成し、１コマでプリント１枚ずつ、漢字の授業内の10分程度を使い、辞書の引き方の練習を行った。

教材作成時のポイント、目的などについては以下の通りである。（教材は資料参照）

漢字を読む練習①（資料１）

ここでは、総画数三～九画の漢字の画数を数える練習をする。

まず、１．の選択問題で、教師の助けなしで、一画一画の切れ目がどこなのかを考えながら、学習者が画数を数える。１．でうまく答えが出せなかった学習者に、どこが違っていたのかを確認してもらう問題が２．である。教師が板書しながら書き方を示す。ここではどこまでを一画と数えるのかがわかりにくいと思われる部分を取り上げた。最後に３．と４．で総画数を数える練習をする。**漢字を読む練習①**と②では、画数を数える練習のみで、辞書を引くことはしない。

漢字を読む練習②（資料２）

①に引き続き、総画数十画以上の漢字の画数を数える練習である。１．～３．までの流れは①と同じである。４．で「日本でよく使う漢字」とあるのは、常用漢字のことを指している。一番多いのが23画であることを学習者に知らせ、「一番多くても23画」と思ってもらうことで負担を軽減しようと考えた。

漢字を読む練習③（資料３）

いよいよ辞書を引く練習に入る。いきなり熟語の読みを調べるのは負担が大きいと思われるので、漢字一字の訓読みを調べる練習をする。電子辞書にはいろいろな辞書が収録されているが、まず漢和辞典を使って調べる方法を練習する。

①、②の流れからすると、総画数から読み方を調べることになるが、総画数では表示される漢字の数が多すぎて、探すのに時間がかかってしまう場合がある。そのような時の対処法として、部首と総画数を組み合わせて調べる方法も指導する。ただし、多くの部首の形や部首名を指導することはここでは重要ではないので、プリントにある漢字を例に、「漢字の中にこの形があれば、その形の画数と総画数から調べるといい（例：「植」＝「木」の画数と総画数から調べる）」という情報を与える程度にとどめる。

また、漢字を探し当て、画面に表示させると様々な情報が現れ、その漢字の読みがどこに書かれているのかわかりにくい場合がある（画面例１「植」参照）。その時、どこを見ればよいのかを指導し、さらに訓読みはひらがなで書かれているということも、ここで指導する。

植

【植】

部首　木　　8画　　総画　12画

区点 3102　JIS 3F22　シフトJIS 9041

教　3年

常読　ショク／うえる・うわる

字音

ショク 漢

チ 漢

チョク 漢

語義

画面例１　Canon SSD-HS1000

（この画面では、画面中程の常読の、ひらがなで書かれた読みを見るように指導する。）

2．では、既習の文型を使用した短文の中に訓読みの漢字が使われている。動詞などが活用されている時でも、どこまでが一語か考えて調べられるように練習する。

漢字を読む練習④（資料４）

③に続いて、訓読みを調べる練習である。③は送り仮名のある訓読みであったため、ひとつの漢字に読みがいくつかある場合でも、比較的見つけやすかったと思われるが、④では送り仮名のないものを集めた。ここでは、「訓読みはひらがなで書かれている」ことを再確認し、音読みを記入しないよう注意を促す。

さらに④では、意味を調べる練習もする（現在のところ、日本で販売されている電子辞書に標準的に収録されているのが和英辞典であるため、意味は英語）。ここで、電子辞書を使用する際の大きな利点である「ジャンプ機能」を使う練習をする。メーカーによって呼び名の違いなどが多少あるかもしれないが、漢和辞典を使って調べた単語から和英辞典にジャンプし、その意味を調べる機能である。ジャンプ機能を使いこなすことによって、読みと意味を素早く容易に調べることができるようになる。

「◆音読みから訓読みを調べましょう」は、画数からだけでなく、すでに知っている読みから他の読み方を調べる方法を知ることが目的である。

漢字を読む練習⑤⑥（資料５・６）

文中に読めない言葉がある場合を想定して、「読み方」「辞書形」「意味」を調べる練習をする。画数から漢字の読み方を調べるのはこれまでと同じである。練習の中に「連れて行く」という複合動詞が入っているが、このような複合動詞は、辞書によっては載っていないこともある。辞書によって収録されている語が違うということ、また自分の辞書に載っていない場合はどうすればよいかということも指導しておいたほうがよい。「連れて行く」が辞書に載っていた場合でも、他の複合動詞は載っていない可能性があるので、他の複合動詞も挙げ、調べ方を紹介する。

2．は、意味を正しく調べることができたかどうかを確認する問題である。

漢字を読む練習⑦（資料７）

⑦は、漢字を見て意味や読み方を推測する練習である。ここまで辞書を引く練習をしてきたが、わからない言葉を見たらいつでも辞書を引くというのではなく、推測することも可能であり、重要であるということを知らせるために作成した。

漢字を読む練習⑧⑨（資料８・９）

接頭辞、接尾辞を学び、３文字以上の単語の意味を調べる練習である。ここまで訓読みを調べる練習をしてきたが、ここで熟語の読み方（音読み）を調べる練習もする。

２－２．今後改善すべき点

今回の教材では、「画数から引く」ということを念頭に置いていたため、画数を数えて辞書を引く練習が大部分を占めていた。しかし、最新の電子辞書の中には画数から引く必要がないものもある（最新の電子辞書に関しては３．で述べる）。今後はその点を考慮し、教材の内容を大幅に変更する必要がある。

特に今回の教材で不足していたと思われるのが、文章中での語の切り方の練習である。日本語は分かち書きではないため、どこまでが一語かがわかりにくい。接頭辞、接尾辞の練習は教材の最後に取り入れたが、漢字語が二語以上つながっている場合、どこで切れるのかがわからなければ、意味を正しく調べることもできなくなる。例えば、「秋期限定」という言葉を学習者に提示したところ、「秋」「期限」と区切って調べてしまい、最後に残った「定」の扱いに困ってしまうといった様子が観察された。また、漢字語だけでなく、文章中に「大勢通っています」のような漢字で書かれた副詞と動詞がつながっている場合も、どこで区切ればよいのかが一見わかりにくい。もちろん、学習が進めばある程度予測ができるようになると思われるが、今回の教材を作成した動機が「わからない言葉があっても、辞書を引いてどんどん読み進めていってほしい」ということであったため、区切り方を間違えて意味が調べられなかったという場合に、どう修正すればいいかということも指導できたほうがよい。

今回の教材で少し触れた複合動詞に関しても、再考の余地がある。複合動詞は辞書によって収録されている語にばらつきがあり、今回指導した際も、辞書によって載っているものと載っていないものとがあった。そのこと自体には問題はな

いが、今回の教材の中にある「連れて行く」に関しては、「連れて行く」も「連れる」も載っていない辞書があり、意味が調べられない学習者もいた。どの辞書にも載っているような複合動詞と、辞書によって載っていない場合があるもの、さらに「連れて行く」のように意味が調べられないものの例を教材に取り入れ、学習者に対処の仕方を示せるとよいと思う。

3．電子辞書について

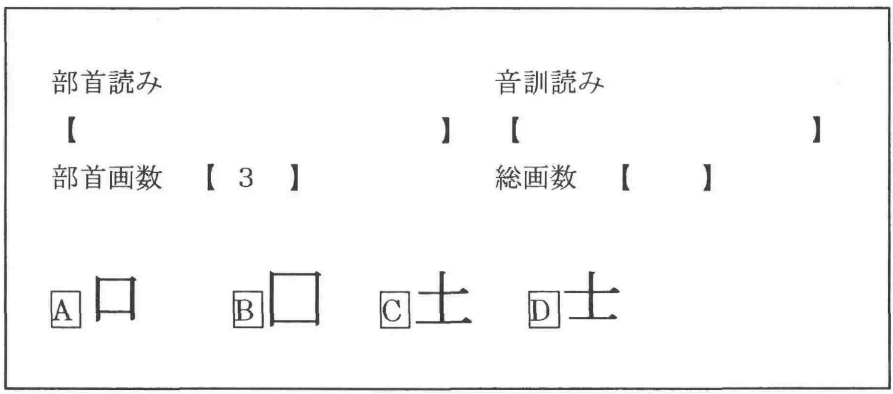
電子辞書で漢字の読みや意味を調べる練習を授業で行ってみて、指導の際に留意すべき点がいくつか見つかった。従来の紙の辞書で引く場合と共通する点もあれば、電子辞書特有の留意点もある。それらを以下にまとめた。

3－1．使い方指導の際の留意点

3－1－1．部首

漢字を読む練習③で、「部首と総画数を組み合わせて調べる方法を指導する」と述べた。正確には、「部首の画数を入力して部首を選び、それから総画数を入力して漢字を調べる」という方法である。このように段階を踏んで調べると、表示される漢字の数が絞られるので、探しやすくなる。

ただし、部首の画数を電子辞書に入力し、出てきた一覧から選ぶ際、よく似た形が画面に出てくることがある。例えば、部首画数三画の「口」と「国がまえ」などである。



画面例 2　Canon SSD-HS1000

部首を表示させた時に選択を誤ると、探すのにかえって時間がかかってしまう。ただ、よく似た形の部首はさほど数が多くないので、間違えやすいものをいくつか提示し、違いを指導するとよい。

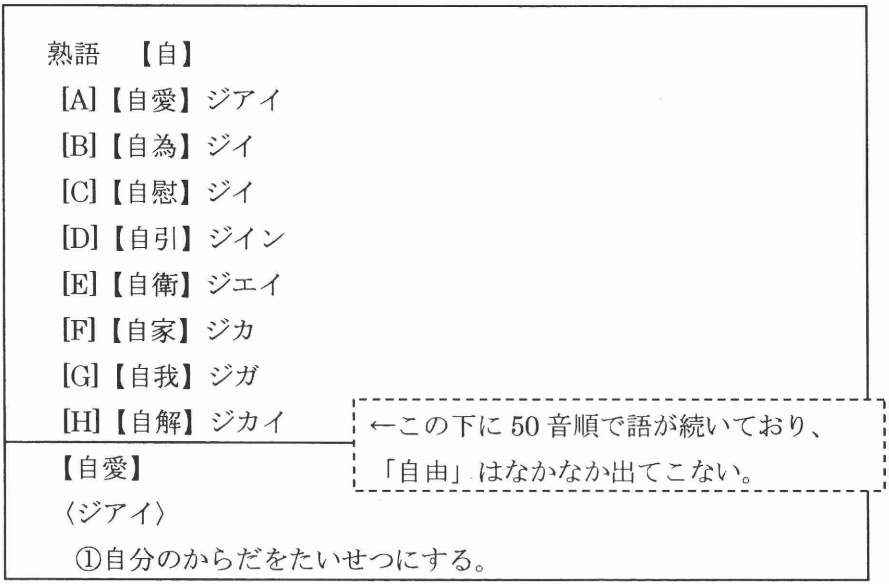
3－1－2．ジャンプ機能

漢字の読みを表示させ、そこから意味を調べる場合、辞書によってはジャンプ機能が使えないこともある。「命＝いのち」など送り仮名のない訓読みはジャンプ機能が使えるが、「迷う＝まよう」のように送り仮名のある訓読みの場合、辞書によってはジャンプ機能が使えない。例えばCanonSSD-HS1000の場合は「**まよう**」のように、読みの部分と送り仮名の部分を太字によって区別しているため、「まよう」から和英辞典にジャンプすることができる。しかし、「まよ・う」のように漢字の読みと送り仮名をナカグロで分けられているような場合は、「まよ」の部分しか選択できないため、「まよう」で和英辞典にジャンプすることができない。

3－1－3．熟語の調べ方

今回の教材では、⑧⑨で、接頭辞・接尾辞を学ぶとともに、熟語の読み方を調べる練習をした。例えば二文字の熟語の読みを調べる場合には、各々の漢字の画数からその音読みを調べ、それらを組み合わせて初めて熟語が読めるということになる。さらに意味を調べる場合には、和英辞典を表示して、また新たに読みを入力して調べなければならない。訓読みの場合と違って、読みから和英辞典にジャンプすることはできないため、多くの手間がかかる。

電子辞書の漢和辞典には「熟語」という項目があり、そこを表示させるとその漢字を使った熟語が出てくる。調べたい語が「熟語」の中にあればよいが、そうではない場合もある。試しに今回の教材⑧に出ている８つの語を調べたところ、「熟語」にあったものは、半分の４語であった（CanonSSD-HS1000使用）。中には「自由」のように、その語にたどりつくまでに約90の語を↓でスクロールしなければならないものもあった（画面例３参照）。



画面例 3　Canon SSD-HS1000

3－2．最新の電子辞書

ここまでは、キーボード入力の電子辞書の使い方の指導や指導の際の留意点について述べてきた。しかし、昨年末（2006年11月）から、タッチパネルを搭載した手書き入力可能な電子辞書が多く発売されるようになり、今年（2007年）は多くの学習者が手書き入力の電子辞書を購入していた。手書き入力ができる電子辞書（以下「手書き辞書」）は、キーボード入力の辞書（以下「キーボード辞書」）とは全く違った手順で、素早く漢字で書かれた言葉の読みと意味を調べることができる。また、3－1．で述べた留意点は全く留意する必要がなくなる。

以下に、手書き辞書とキーボード辞書を比較しながら、手書き辞書の利点、手書き辞書を使う際に指導すべき事柄について述べる。

3－2－1．言葉の読みを調べる場合

キーボード辞書で漢字の読みを調べる場合には、2－1．教材で述べたように、漢字の画数を知る必要があった。また、熟語の読みを調べる場合には、それぞれの漢字の画数を数えて読みを調べ、それらを組み合わせて読むという手順を踏ま

なければならなかった。それに対して手書き辞書では、まず、画数を知る必要がない。手書き辞書を引く際に必要なのは、漢字の形を把握し、書き写すことである。筆者が使用した手書き辞書SHARP PW-AT750では、正しい画数、書き順で漢字を書く必要すらなかった（例えば、「口」を書く場合に○を書くように下から一画で四角を書いたり「弓」を一画で書いたりしても、正しく認識された）。さらに、熟語を調べる場合には、二文字を続けて入力し認識させれば、その語を調べることができる。

現在は、キーボード辞書を持っている学習者と手書き辞書を持っている学習者が教室内に混在している状態である。言葉を調べる練習として同じ課題を与えた場合、その速さには大きな差が出てしまう。キーボード辞書を使っている学習者がひとつひとつ漢字の画数を数えている間に、手書き辞書の学習者は、その語の読み方と意味を調べ終えてしまう。学習者自身の日本語能力などとは関係なく、辞書の性能でこれだけ大きな差が出ることがわかった以上、教師が辞書購入に際して学習者に一言アドバイスすることも重要だと思われる。

3－2－2．言葉の意味を調べる場合

キーボード辞書では、漢和辞典などで言葉の読みを調べた上で、ジャンプ機能を使って和英辞書でその語の意味を調べる。読み方がわからない言葉の意味を和英辞典で調べることは不可能であった。しかし、手書き辞書では、和英辞典に漢字で入力し、読みと意味を一度に調べることが可能である。これは、「読み→意味」という手順が軽減されるだけでなく、ジャンプ機能の使い方を理解し、使いこなせるようになるという手間も不要になり、学習者にとっても大きな利点である。

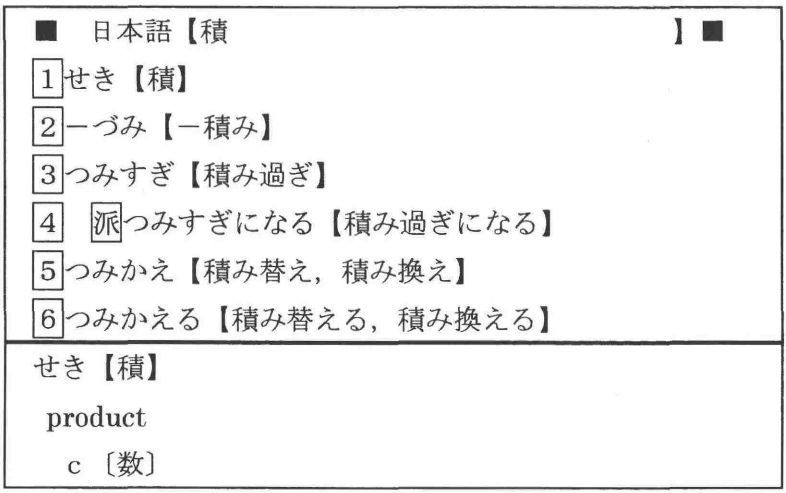
3－2－3．手書き辞書の使い方の指導

ここまで述べてきたように、手書き辞書はこれまで必要とされてきた事柄の多くを必要とはしなくなった。それに伴い、辞書使用に関して指導すべき事柄も変わってくる。2－1．で紹介した教材のうち、手書き辞書を引く練習に使えるものは、⑤以降である。

キーボード辞書を引くための練習①～④の教材で学ぶ、画数やジャンプ機能を覚えたり練習したりする代わりに、手書き辞書では、当然のことではあるが、漢

字を書き写すことができなければならない。先にも述べたように、正しい画数や書き順は手書き辞書で調べる際には必要ではない。しかし、全く漢字を書いたことがない学習者は、辞書が認識できない字を書いてしまう恐れもあるので、ある程度、基本の漢字を実際に紙に書いて形を把握しておいたほうがよいだろう。

また、名詞を調べる場合には特に注意する点はないが、動詞や形容詞など活用のある語に関しては、学習者に注意を促したほうがよい点がある。例えば**漢字を読む練習⑤**にある「積もった」という語を調べる場合、学習者はまず、和英辞典に「積」という漢字を入力する。



画面例 4　SHARP PW-AT750

このように表示される数々の語の中から、正しく「積もる」を選び出すためには、動詞の活用を正しく理解し、応用できなければならない。逆に言えば、正しく活用できれば、「積もる」と入力して、より速く意味を調べることができるのである。この速さの違いは辞書の性能によるものではなく、学習者自身の日本語能力によるものであるので、練習次第でさらに速くなることを指摘し、学習者の日本語能力向上にもつなげることができると思われる。

3－2－4．収録語数の問題

手書き辞書では、和英辞典を使って、読みと意味を同時に調べられることを述べたが、場合によってはジャンプ機能も指導しておいたほうがよいこともある。数はさほど多くないと思われるが、和英辞典では読み方が調べられない語もあるためである。これは、和英辞典と国語辞典の収録語数の違いによる。例えば、「申込書」という言葉を調べる際「申」と入力すると、和英辞典では「申＝さる」と出てしまい、「申込」と入力すると「該当語なし」となってしまう。しかし、同じ言葉を国語辞典で調べると「申込＝もうしこみ」という読みを調べることができる。ここでジャンプ機能を使って、「もうしこみ」という読みから和英辞典にジャンプすれば、意味も調べることができる。中には国語辞典で読みは調べられたが、和英辞典には該当語がなく意味が調べられないものもあると思われるが、和英辞典になければ国語辞典を見るなど、調べられない語があった場合の対処法も指導しておくとよい。

4．まとめ

4－1．電子辞書に望むこと

3－2－1、3－2－2で述べたように、手書き辞書の登場によって、キーボード辞書の使いづらさはほとんど解消された。しかし、手書き辞書が学習者にとって本当に使いやすいものかというと、やはり問題点もある。

まず、機能が多すぎてわかりにくいという点である。現在発売されている電子辞書は、辞典・辞書の収録数の多さや、発音が聞ける、テレビが見られるなど、多様な機能や特長を備えている。しかし、どんなに多くの機能が備わっていても、日本語学習時に使用するのはほんの一部である。辞書のように分厚い取扱説明書の中から、自分に必要な機能を見つけ出して使い方を習得するなど、特に初級の学習者にとっては至難の業である。先日、学習者にされた質問は非常に印象的なものであった。「先生、日本語の辞書（国語辞典）は、どこにありますか。」その学習者は多くのボタンの中のどれを押せば国語辞典が出てくるのかがわからなかったのである。多くの辞書や機能を持つ高価な電子辞書を持っていながら、和英辞典しか使っていなかった（使えなかった）のは、非常にもったいないことだと思う。これからも機能はますます増え、使い方も複雑になる一方だと思われる。

もちろん、そのような時には、教師が最低限必要な事項について適切なアドバイスをし、手助けをしたいと思う。しかし、その一方で学習者が一目見て使い方がわかるようなシンプルな電子辞書が開発されたら、という願いもある。

また、非漢字圏の学習者の場合、言葉の読みや意味を知ることも大切であるが、それと同時に漢字一字が持つ意味も学習できると非常に役立つ。**漢字を読む練習⑦**に入れたように、漢字一字の持つ意味がわかれば、漢字二文字を組み合わせた語の意味が類推できるからである。そのために、漢和辞典の表示がもっとわかりやすくなるとよいと思う。画面例1にあるような部首や総画数、JISコード番号などは表示画面上部にはなくてもよい。まずその漢字の読み、それから意味がすぐに目に入るような表示にし、できれば意味の英訳もあると学習者にとって便利である。英訳が無理ならば、和英辞典にジャンプできるような短い言葉での意味説明があるとよい。

以上のようなことを望みつつ、現時点で教師ができることは、現在発売されている電子辞書を学習者が使いこなせるように、手助けをすることであろう。日本語学校で学習している間に電子辞書を使いこなせるようになり、進学先で役立てることができるように、教師ができる範囲で適切なアドバイスができたらと思う。今後も電子辞書の機能に関する情報をできる範囲で集め、学習者に対してどのような指導を行っていけばよいかを考えていきたい。

4－2．日本語学習者向けの電子辞書について

本稿では、非漢字圏学習者が電子辞書を使って、漢字の読みと意味を調べる場合について述べてきたが、電子辞書の使用範囲はそれだけではない。漢字の書き方を調べることもあるだろうし、作文を書く時に英語から日本語の言葉を調べたりすることもあるだろう。

漢字の書き方を調べ、それを学習者が書き写す場合、現在の辞書は書体が明朝体のため、手書きの場合とは形が違っていることがある（「道」などのしんにゅうの形など）。学習者はそのままそれを真似て書くため、不自然な字になってしまう。そのようなことを防ぐために、漢和辞典で漢字を調べた場合には、楷書体や教科書体で表示されるのが望ましい。

また、英語から日本語の言葉を調べた場合に、文章にそぐわない言葉を選んでしまうことがある（friendship：親睦、友情　「友情」を使ったほうがよい文章

中に「親睦」を選んで書いてしまうなど)。その語の使い方を示す用例などがあれば、学習者が自分で考えて選ぶことができるだろう。教師も、もちろん文章によってふさわしい語を選択するよう指摘し注意を促しているが、学習者自身が選ぶことができるようなヒントが辞書の中に書かれているとよいと思う。

手書き辞書の登場によって、電子辞書を使って調べるために知っておかなくてはならない知識や手順は大きく変わり、操作の面では飛躍的に進歩したと言える。これからは、辞書の内容や表示のさせ方が工夫され、学習者にとってさらに実用的な使いやすい辞書が作られることを期待したい。

(付記)

論文執筆時に使用した電子辞書の機種は、Canon SSD-HS1000（キーボード操作）とSHARP PW-AT750（手書き入力）である。また画面例は、それぞれの画面を元にWORDを使用して作成した。

資料1

漢字を読む練習①

◆画数（stroke）を数えましょう。

1．画数が同じ漢字はどれですか？
画数が同じ漢字の記号に○をつけてください。

①	a. 山	b. 中	c. 円	d. 世
②	a. 区	b. 田	c. 台	d. 同
③	a. 吸	b. 行	c. 医	d. 国
④	a. 送	b. 海	c. 学	d. 私

2．書き方を確認しましょう。

冂	⇒	口	⇒
匸	⇒	子	⇒
及	⇒	辶	⇒
世	⇒	毎	⇒

3．何画ですか。数えて、（　　）に数字を書いてください。

①近	（　　）	②匹	（　　）
③級	（　　）	④好	（　　）
⑤冊	（　　）	⑥困	（　　）

4．先生が見せる漢字を見て、画数を言ってください。

資料 2

漢字を読む練習②

◆画数（stroke）を数えましょう。

1．画数が同じ漢字はどれですか？
画数が同じ漢字の記号に○をつけてください。

①	a. 連	b. 強	c. 院	d. 暑
②	a. 経	b. 葉	c. 朝	d. 漢
③	a. 電	b. 置	c. 慣	d. 間
④	a. 飼	b. 輪	c. 興	d. 選

2．書き方を確認しましょう。

弓 ⇒　　阝 ⇒

又 ⇒　　糸 ⇒

乚 ⇒　　己 ⇒

3．何画ですか。数えて、（　　）に数字を書いてください。

①遊	（　　）	②組	（　　）
③都	（　　）	④費	（　　）
⑤詞	（　　）	⑥飽	（　　）
⑦論	（　　）	⑧植	（　　）
⑨階	（　　）	⑩難	（　　）

4．日本でよく使う漢字で一番画数が多いのは、「鑑」という字です。
この漢字は何画でしょうか。

鑑

資料 3

漢字を読む練習③

◆訓読みを調べましょう。

1．次の漢字の読み方は何ですか。わからない時は辞書で調べてください。

☝画数を数えてから、辞書をひいてみましょう。

①迷う	（　　）	②飽きる	（　　）
③植える	（　　）	④選ぶ	（　　）
⑤答える	（　　）	⑥飼う	（　　）
⑦配る	（　　）	⑧試す	（　　）
⑨柔らかい	（　　）	⑩優しい	（　　）

☆上の漢字の読み方は、辞書の中では「ひらがな」で書いてありますね。

ひらがなで書いてある読み方を「訓読(くんよ)み」と言います。

2．下の文の中の漢字の下に、読み方を書いてください。

わからない時は辞書で調べてください。

☝動詞や形容詞は、辞書形が何かを考えましょう。

① 道に迷った時は、おまわりさんに聞きます。

② 前は友だちがいなくてとても寂しかったです。

③ すみません、先に行ってください。後でデパートの前で会いましょう。

④ たばこの煙で目が痛いです。向こうに座りませんか。

⑤ 二時に目が覚めた。それから寝られなくなってしまった。

資料 4

漢字を読む練習④

◆訓読みを調べましょう。

1．次の漢字の読み方（訓読み）は何ですか。わからない時は辞書で調べてください。

画数を数えてから、辞書をひいてみましょう。

読み方がわかったら、意味も調べましょう。

①命	（　　）	②鏡	（　　）
③刀	（　　）	④声	（　　）
⑤塩	（　　）	⑥卵	（　　）
⑦庭	（　　）	⑧針	（　　）
⑨豚	（　　）	⑩湯	（　　）

2．下の文に入る言葉は、上の①～⑩の中のどれですか。（　　）に書いてください。

(1) 母の（　　）が聞きたいです。

(2) 林さんはいつも（　　）を見ています。

(3) 私の家の（　　）には、りんごの木がある。

(4) スーパーで（　　）と（　　）を買ってきてください。

(5) ボタンが取れてしまいました。（　　）を持っていませんか。

◆音読みから訓読みを調べましょう。

1．次の漢字の読み方（訓読み）は何ですか。

わからない時は知っている読み方を思い出して、辞書で調べてみましょう。

①学ぶ	（　　）	②生きる	（　　）
③親	（　　）	④強い	（　　）
⑤写す	（　　）	⑥旅	（　　）

学生　両親　勉強　写真　旅行

資料 5

漢字を読む練習⑤

1．次の動詞の読み方、辞書形、意味を辞書で調べましょう。

	読み方	辞書形	意味
① 違った	(　　)	(　　)	(　　)
② 散ってしまった	(　　)	(　　)	(　　)
③ 包んでください	(　　)	(　　)	(　　)
④ 積もった	(　　)	(　　)	(　　)
⑤ 連れて行った	(　　)	(　　)	(　　)
⑥ 伝えたい	(　　)	(　　)	(　　)
⑦ 逃げないでください	(　　)	(　　)	(　　)
⑧ 並んでいます	(　　)	(　　)	(　　)

2．下の文に入る言葉は、上の①~⑧の中のどれですか。(　　) に書いてください。

(1) 先週の日曜日に妹(いもうと)を遊園地(ゆうえんち)に (　　)。

(2) これは、友だちの誕生日(たんじょうび)のプレゼントなので、きれいな紙で (　　)。

(3) 駅(えき)の前に自転車(じてんしゃ)がたくさん (　　)。

(4) 昨日の夜からずっと雪(ゆき)が降(ふ)っていたので、外にはたくさんの雪が (　　)。

(5) きれいな花が、昨日の風(かぜ)で (　　)。

資料 6

漢字を読む練習⑥

1．次の動詞の読み方、辞書形、意味を辞書で調べましょう。

	読み方	辞書形	意味
①似ていない	（　　）	（　　）	（　　）
②お願いします	（　　）	（　　）	（　　）
③喜んでいます	（　　）	（　　）	（　　）
④破れました	（　　）	（　　）	（　　）
⑤寄りませんか	（　　）	（　　）	（　　）
⑥笑わない	（　　）	（　　）	（　　）
⑦脱いでください	（　　）	（　　）	（　　）

2．下の文に入る言葉は、上の①~⑦の中のどれですか。（　　）に書いてください。

(1) くつ下が（　　）。

(2) 兄と父はぜんぜん（　　）。

(3) へやに入る時は、くつを（　　）。

(4) 疲(つか)れたので、ちょっと喫茶店(きっさてん)に（　　）。

(5) 姉(あね)が大学に合格(ごうかく)したので、家族(かぞく)はみんな（　　）。

資料 7

漢字を読む練習⑦

1．次の言葉の読み方は何ですか。できるだけ、辞書を見ないで考えてみてください。

☝これらの言葉の読み方は、全部訓読みです。

①大雨　（　　）　②早起き　（　　）
③夏休み　（　　）　④安売り　（　　）
⑤夕方　（　　）　⑥氷水　（　　）
⑦顔色　（　　）　⑧花見　（　　）

☝漢字を見て、意味がわかりますか？

☆二つの漢字で言葉を作る時、後ろの漢字に「゛」がつくことがあります。

例）「大（おお）」＋「空（そら）」＝　大空（おおぞら）

⑪下着　（　　）　⑫青空　（　　）
⑬横顔　（　　）　⑭悪口　（　　）
⑮昔話　（　　）

資料 8

漢字を読む練習⑧

1．次の漢字のことばは、二つにわけることができます。

どこでわけられるか、考えてみてください。

例）図書館 ⇒ 図 書 ／ 館

a．不親切 ⇒ 不 親 切　　b．無関心 ⇒ 無 関 心

c．会社員 ⇒ 会 社 員　　d．映画館 ⇒ 映 画 館

e．不必要 ⇒ 不 必 要　　f．無計画 ⇒ 無 計 画

g．不自由 ⇒ 不 自 由　　h．無試験 ⇒ 無 試 験

2．三文字のことばは、二つにわけることができるものが多いです。

1．のa、e、gは「不」＋「●●」

b、f、hは「無」＋「●●」にわけられますね。

では、「不」「無」はそれぞれどういう意味でしょうか。

「不」…＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「無」…＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

では、a、e、g、b、f、hの読み方と意味はなんでしょうか。

	読み方	意　味
a．不親切	（　　）	（　　）
e．不必要	（　　）	（　　）
g．不自由	（　　）	（　　）
b．無関心	（　　）	（　　）
f．無計画	（　　）	（　　）
h．無試験	（　　）	（　　）

☆三文字のことばを辞書で調べる時、辞書にない場合は二つにわけて意味を調べてみましょう。

資料 9

漢字を読む練習⑨

1．次の言葉の意味を辞書で調べてみましょう。

辞書にないときは、言葉を二つにわけて調べてみましょう。

	読み方	意　味
a．不健康	（　　）	（　　）
b．不参加	（　　）	（　　）
c．無関係	（　　）	（　　）
d．超満員	（　　）	（　　）
e．超高層	（　　）	（　　）
f．自動化	（　　）	（　　）
g．高齢化	（　　）	（　　）
h．大企業	（　　）	（　　）
i．大問題	（　　）	（　　）

2．「不」「無」の意味を覚えていますか？

「不」は＿＿＿＿＿＿＿＿、「無」は＿＿＿＿＿＿＿＿でしたね。

では、次の漢字の意味はなんですか。

「超」…＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「大」…＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「化」…＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿